

高齢化は、みんなで支えあい乗り越えよう！

山口勝士が問う



高齢者への安全 安心対策を

答弁 補助金を活用し
安全運転につなげる

Q 国の「安全運転サポート車」への補助金制度が始まった。65歳以上の高齢運転者を対象に、新車や後付けの急発進抑制装置導入も補助になる。積極的に活用してもらえよう、本人と家族への周知を。

A 防災地域支援課長 町も補助金を一人でも多くの高齢運転者に活用していただき、安全運転につなげていきたいと思っています。国・県等から情報が入り次第、広報やホームページ等で周知し、活用を促していきます。

認知症の方を支える地域に

Q 認知症に対して、本人や家族の不安に加えて、周りの方の誤解や偏見で問題を複雑にしてしまう。認知症サポーター拡大だけでなく、地域で支える具体的な活動の展開を。

A 長生き支援課長 国は認知症の方や家族が安心して暮らせる地域づくりを目指して、「チームオレンジ活動」を普及促進しています。当町ではその活動の核として「要援護者等支援ネットワーク推進会議」や「百歳体操」「認知症カフェ」等を展開しています。今後も認知症の方が安心して暮らせる地域づくりを目指していきます。



住民に支えられての認知症カフェ。今後の体制強化に期待する。



第34回
議会広報全国コンクール

応募274紙中

**3年連続
ベストテン入り！**

これからも「ワンチーム」で

プレッシャーと闘いながらでしたが、3年連続で優良賞（全国6位）をいただきました。編集委員はコンクールが目標ではありません。ただただ「町民の皆様手に取って読んでいただくため」そして「町民の笑顔と一生懸命な姿」を追いつけた結果だと感じています。議会報にゴールのテープはありません。これからもワンチームで走り続けます。

議会広報発行特別委員会一同



受賞した「おがわざかい No.91」と、全国コンクールの結果一覧は、議会HPからアクセス！ →



一部事務組合議会から報告

可燃ごみ処理

埼玉中部資源循環組合議会（令和2年2月6日）

令和2年3月31日で解散

新ごみ処理施設の建設を目指し、平成27年4月1日設立。構成9市町村で付帯施設を巡って意見がまとまらず解散に至った。これまでの小川町の負担金総額は1億6747万円で、1億684万円返還された。施設ができなかった上、約6000万円を無駄に費やしたことになる。

ごみ処理・し尿処理

小川地区衛生組合議会（令和2年2月18日）

中部解散で待ったなし

令和2年度一般会計予算総額は、14億2785万円（小川町の負担額は3億4854万円）。可燃ごみ処理施設は令和5年までの延命を図ってきたが、埼玉中部の解散で、早急に方向性を出さなければならない。

消防・救急・斎場の管理運営・介護・障害審査会

比企広域市町村圏組合議会（令和2年2月4日）

火葬棟開始 12月予定

令和2年度一般会計及び各特別会計の予算総額は、47億470万円（小川町の負担額は5億3638万円）。火葬棟・葬祭棟の運用開始予定は、令和2年12月。

我が町にどう活かせるか 3 常任委員会 先進地視察

総務常任委員会

テーマ 超高齢社会に対応した交通安全対策

厚生文教常任委員会

テーマ 高齢者の自立した生活の支援

少ない予算で提供する 高齢者向け移動サービス

富士河口湖町では、移動手段のない75歳以上の高齢者に「タクシー券」または「バス定期券」の一部を補助し、少ない予算でサービスを提供している。

また、高齢者が長く安心して運転できるよう、民間の自動車学校や大学と連携し「高齢者ドライバー支援事業」を進めている。

現行のデマンド型タクシーの充実を踏まえ、超高齢社会に対応した「小川町版の交通安全対策」が1日も早く実行されることを願う。



富士河口湖町HP
高齢者福祉サービス



我が町に活かせる！ Keywordは…
小川町版の交通安全対策

経済建設常任委員会

テーマ 伴走型中小企業支援におけるコンサルティング

新しい発想は 「徹底した話し合い」から

富士市では、平成20年に産業支援センター「f-Biz（エフビズ）」を開設し、地元の中小企業経営の立て直しに着手した。相談者との徹底した話し合いは新しい発想を生み出し、多くの成果を上げている。地方創生に悩む全国の自治体が、助成金による支援から伴走型支援モデルである「OOBiz」に取り組み始めている。小川町も、企業誘致に固執することなく

「やる気のある既存の企業・店舗や産業」を公的補助で再育成していく施策の展開を期待する。



富士市
産業支援センター「f-Biz」



我が町に活かせる！ Keywordは…
企業・店舗を育てる人材確保